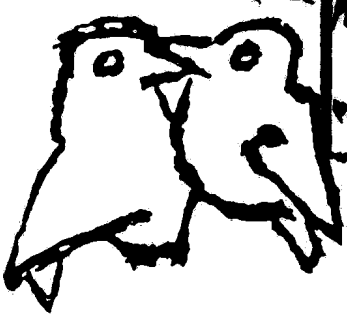
武安宫马路全集



浙江工业学院图书馆
藏书章

第四卷

武者小路實篤全集　第四巻

一九八八年六月一〇日　初版第一刷発行

著者――武者小路實篤
発行者――相賀徹夫
発行所――小学館
〒一〇一-〇一　東京都千代田区一ツ橋二丁目三番一号
振替　東京八―二〇〇番
電話　編集・〇三―二九二―四三七〇
業務・〇三―三〇―五三三三
販売・〇三―三〇―五七三九

印刷・製本――大日本印刷株式会社
用紙――三菱製紙株式会社

定価＝6800円

Printed in Japan　ISBN4-09-656004-9
© Mushakōji Saneatsukai 1988

＊著者検印は省略いたしました。＊造本には十分注意しておりますが、万一落丁・乱丁などの不良品がありましたら、おとりかえいたします。＊本書の内容の一部または全部を、無断で複写複製（コピー）することは、法律で認められた場合を除き、著作者および出版者の権利の侵害となりますので、その場合はあらかじめ小社あて許諾を求めてください。

武者小路實篤全集　第四巻

目

次

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

新しき村の生活……一
序……三
新しき村に就ての対話……四
第一の対話 ― 第二の対話 ― 第三の対話
新しき村の小問答……二二
新しき村に就ての雑感……二五
失敗しても ― 自分達のまく種 ― 新しき村が出来たら ― 一つの帳面 ― 生活に
逐はれすぎるのは ― 寄附金 ― 金もうけ ― 一番の特色 ― 自分達の強み ―
自分だけが ― 畑をたがやし ― 土地だけ ― 第一の村 ― 新しい村のやうな仕事
― いゝこと ― 不愉快なこと ― 少くも始め二三年は ― 勝ちぬくとは ― 太陽
ですら ― ともかく毎年 ― 会員になりたい人 ― 地 主(自 戒) ― 勝利の道
― 二種の会員 ― 自分達は
或る国の話……四二
土 地……四五
新しき村叢書……六一
●第一篇 ― 自分の人生観……六二
自分の人生観(新しき村の目的)……六二
●第二篇 ― 新しき村の信仰……八〇
新しき村の信仰……八〇

新しき村と他の主義……八五
新しき村の将来……八九
正しき信仰と不正な信仰……九二
●第三篇 ― 演説二つ……九六
自序……九六
新しき村の使命……九七
死に克つ為には……一〇九
●第四篇 ― 理想的社会……一二二
理想的社会……一二二
神の国……一四三
●第五篇 ― 愛に就て……一四七
愛に就て……一四七
人類愛について……一六四
隣人愛に就て……一六七
●第六篇 ― 人間と社会……一七九
諸兄姉……一七九
人生に就て……一八一
まちがつた思想とは……一九二
○ ― 今の社会は生活と正義が ― いろ〳〵の方面に ― 人間はかう云ふ風に ―
自分の幸福 ― 村の生活を ― 自分のよろこびを ― 屁理屈云ふより ― 神から来

るよろこびを ― 自己を生かし切りたいがために ― 自己を根底から ― 太陽は
― 正邪以下の ― 地上に於ては ― しかし我等は ― 生きることが ― 神の国に
住むのに ― 不平家より ― 私のやうな人間を ― 虫のいゝ処がありますぜ ― こ
んなに ― 人間の智慧と
階級闘争に就て……二〇〇
●第十篇 ― 人間的社会……二〇四
人間的社会……二〇四
ありのまゝに見る……二〇六
神に就て……二〇八
人間と人間とが、其他……二一〇
村の仕事……二一二
雑　感……二一五
自己を生かした者……二一六
新しいものが……二一八
人間をつくつたもの……二一九
未知の兄弟姉妹に……二二二
●第十五篇 ― 自分達の使命……二二九
兄弟よ……二二九
自分達の使命……二三〇
新しき村……二三二

今の村の経済……二三四
決心を新にすれば、其他……二三七
君に本当のことを聞くが……二四三
種よ……二四六
新しき村の建設……二四七
社会の改造と自己の改造、其他……二四八
〔社会の改造と自己の改造〕一 新しき生活 一 すきまがあつたら 一 生きる条件
一 希望にもえてゐる 一 幹からはなれた枝 一 藪医者 一 讃美する
新しき村に就て……二五〇
聖人になれるものは、其他……二五二
隣人への奉仕の日……二五六
村が出来たこと……二五七

幸福者……二五九

耶蘇……三二九

第三の隠者の運命……三九九
第三の隠者の運命……四〇一

自分の三部作について……五四一
「幸福者」と「耶蘇」と「出鱈目」（改題「第三の隠者の運命」或は「運命」）と
ユダの弁解……五五五
ヨハネ、ユダの弁解を聞いて……五六〇

へんな原稿（戦にゆく前）……五六三

「新しき村」より……五八七
祈り……五八九
母上に……五九〇
第一の村をつくる土地に就いて及びその他……五九二
手紙三つ……五九四
新しき村と現在の生活及びその他……五九八
雑二十六……六〇二
一、兄弟 一 二、オルガン運び 一 三、加藤勘助兄の目 一 四、米良重穂兄 一
五、新しき村と男女 一 六、から云ふことが起つたら 一 七、隕石 一 八、我等
の仕事 一 九、経済学者 一 十、新しき村にとつて 一 十一、村の為に 一 十二、
村の利己心 一 十三、村の為め 一 十四、自分の考へと村の人の考へ 一 十五、害
虫 一 十六、幸福者 一 十七、村の歴史 一 十八、自分は 一 十九、村にとつて
一 二十、土地さへあれば 一 二十一、村の仕事では 一 二十二、経済のこと 一

二十三、ごた〳〵　二十四、善良な人間でも　二十五、あんまり理想的に　二十六、日光の通らぬ処
叔父さんに……六〇九
解説・解題……大津山　国夫……六一三

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

新しき村の生活

〔『新しき村の生活』表紙〕

序

この本をよんでくれゝば自分の新しき村を建てたがつてゐる気持はわかつてくれると思ふ。自分の書き方には不備な点が多く、自分の無学は物識の嘲笑を招くに十分な資格を持つてゐるかも知れない。しかし自分の精神にはまちがひがないと思つてゐる。自分は自分の精神は自分一人の精神ではないと思つてゐる。万人の精神と共通なものがあると思つてゐる。そして自分の欲する処は又万人の欲する処と思つてゐる。少くも心ある人は自分の憂ひを憂ひ、自分の望みを望んでくれると思つてゐる。それは自分の望んでゐることは同時に人類の望んでゐる処だからだ。自分は決して珍らしいことを望んではゐない。既に多くの人がのぞみ、又のぞみつゝあることだ。そしてある所までは既に実行した人もあるさうだ。しかし皆もう一息、二息と云ふ処でひつかゝつて海に流れこむことは出来ずにゐる。自分は自分達の力でそれを海に流れこましたく思つてゐる。それには万人の精神が一つにならなければならない。

自分達は先づ自己の生活を改造する。新しき世界に最も調和しやすい生活をこの世で生活して見せる、かくて個人の生活を改造する。我々は自己を最も人間らしく生かすことから始める。よき花がさき、よき実がむすぶには、よき生活が必要だ。自分達にとつては実をむすぶだけが目的ではない。よき花を咲かせることも、自己をよく生長させることも自分達の目的だ、三つは一つだ。自己を先づ生かさう、そして思想の花を咲かせ、そして実をむすび同志を得る。自己を生かすことは、思想を生かすことで、同時に同志をふやすことを意味する。この三つは一つである。

この世に一人でも多く人間らしい生活をするものがふえてゆくことは、我等のよろこびだ。「新しき村」の住民はより人間らしく生きればいゝのだ。この本にかいてあることが、まちがつてゐれば、自分達をより正しき生活に入るのに努力を惜まないつもりだ。

くわしくは本文を見てほしい。それよりも、今後の自分達の内面の生活記録雑誌「新しき村」を気ながに見てほしい。そして同感の士はます〳〵同感を感じてぢつとしてゐられなくなつたら自分達の仲間になつてほしい。それは自分達にとつて無上のよろこびだ。しかし無理して入つて来てもらつては困る。

「友あり遠方より来る又たのしからずや」

さう孔子の云つたのは本当である。

自分達に打ち勝ちたいものは、自分達よりも、より正しく人間らしく自己を生かして見せてくれ。その時自分はその人の前によろこんで跪かなかつたらそれは自分の卑しさを示す。

自分はこの本にのせたものを第一部と、第二部に分つた。第一部は本論で、第二部は本論に達する迄の自己の内面生活の径路を示す。自分がこゝにくる迄に何年を要したか、どの位、躊躇したか、又どの位何かの手に盲目に導かれて来たか、それを知つて、もらふことは自分の精神を一層はつ切りさせてくれることゝ思ふ。それは無意味なことではないと思ふ。よし今迄に何度もよんで下つた読者にとつても。

自分はこんなわかり切つたことに到達するのにも一朝一夕ではなく、実にぢり〳〵進んで来た。それは自分の強味だと思つてゐる。

その他自分のいひたいことは本文が云つてくれるであらう。本文第二の対話の内の誤解され易い不用意のどうでもいゝ言葉は二三行消した。それは揚足をとられたから気がついたことを白状しておく。

一九一八年七月六日

第一部

新しき村に就ての対話

第一の対話

A。先生

先生。Aか。暫くだね。

A。先生は相変らず御元気で結構ですね。

先生。あゝ、まあ元気にしてゐるよ。

A。この頃は何か書いていらつしやいますか。

先生。別に何もかいてゐない。この頃は色々のことが解らなくなつてゐる。以前はあることに疑問を挾めばそれでよかつた。解決は他人に任せて安心してゐられた。或はとても解決の得られないことを、疑問なら疑問なりに饒舌れば、それで他人に反省をうながすことが出来るので、それで安心してゐた。それで満足しないまでも、それで自分の義務を幾分か果した事になつた。しかし此頃は、それに自分である処まで答へを与へたくなつた。それで自分はぼんやり色々のことを考へてゐる。が、夫がもつと形の出来る迄、何にも書きたくない。それで黙つてゐる。

A。どんな事をぼんやり考へていらつしやるのですか。

先生。いろ〳〵の事だ。しかし一言で云へば、この世がどうなれば一番合理的であるか、そして世の中がさうなるには何うしたらいゝかと云ふ事を考へてゐる。しかし自分は実際家ではない。唯考へてゐるだけだ。先づ僕は一つの家を建てる設計家だ、大工ではない。自分はある理想的な家の計画だけを生きてゐる間に、はつ切り作つて置きたく思つてゐる。

A。お出来になる積りですか。

先生。少し夢のやうな話だが、出来ないものとは思へない。

A。その夢のやうな話を聞かして戴く訳には往きませんか。

先生。聞いて呉れゝばしてもいゝ。然し余りに虫のいゝ空想と思ふだらう。ともかく其処の石に腰かけよう。そして俺が沈黙してゐる内に本当に進歩したか、退歩したか聞いて貰はう。僕はかう云ふ事を考へてゐる。と云つて僕の云ふことは甚だ平凡な事だからその心算でゐてほしい。僕はこの世の中に食ふ為に働く人が一人でもゐれば、それはこの世の中のまだ完全でない証拠と思つてゐる。額に汗して汝の糧をつくるべしと云ふ時代は既に過ぎ去つてゐるべき筈なのだと思つてゐる。

A。先生は相変らず楽天家ですね。

先生。僕は現世について云つてゐるのでない。現世は汝の糧の為には汝の一生を売るべしと云ひ兼ねない。現在さう云ふ境遇の人は幾らでもゐる。しかしそれは社会の制度がまだ成長し切つてゐないからだ。自分は労働を呪ひはしない。しかし食ふためにいや〳〵しなければならない労働は呪ひたい。労働は人間が人間らしく生きるのに必要なものとしてなら讃美する。その労働は男は男らしく、女は女らしくする労働で、人間を人間らしくする労働でなければならない。労働といふ名は新しい時代に於ては、中世

における武士と云ふ名と同じく誇りある名でなければならない。人々は強ひられずに、名誉の為に、人類の為に労働をすると云ふ時代が来なければならない。労働は享楽ではない、しかし人間としての誇りある務めだ。労働の価値は高まる。そして人々は喜びと人間の誇りをもつて労働する。さう云ふ時代が来ることを自分は望んでゐる。

A。先生は相変らず空想家ですね。

先生。相変らず空想家だ。しかしさう云ふ時代が来ることは君も認めるだらう。僕は社会主義を恐れるものは、今の労働者から労働を奪ひ、その代りに食を与へるにあると思ふ。我々は農夫と労働者の御蔭で生きてゐる。そして我々の分まで労苦してゐる。そしてその為に我々は労働の方には無資格になつてゐる。我々の労働者に対する恐怖は、我々が彼等のやうに労働することが出来ないと云ふ点にある。彼等の貧しきを利用して彼等に不当のことをしてゐる点にある。国家の為に社会主義や共産主義が害があるかどうかは別にする。又人類の進歩に向つてそれ等のものが害があるかないかは別にする。しかし兎も角我々が労働者になれないと云ふことは我々の弱味である。僕はその点労働者には頭が上らない。彼等は僕達の出来ないことをしてゐる。子供の時からの教育が違ふ。人類に必要欠くべからざる労働に対して、自分達は何等の負担を持たないでいゝやうに教育されてゐる。それは人類に対してもすまないことであり、又気のひけることである。自分は分業と云ふことは認める。一個人がどの労働も出来なければならないと云ふことはない。しかし何か人類が生きる為めに必要な労働の分け前を幾分か分担してないことは弱味だ。それは今の社会の弱味でこの弱味をなくして真の意味の万民平等に人々を教育するのが、今後の為政者の、又教育家の務である。労働は尠くも一家族の問題ではない、一町村の問題だ。社会の問題だ。食ふと云ふ事に於ては各人共通だ。だから食ふ為には各人共に働くのが至当でもあり、好都合でもある。そして各人協力して労力の負担を少くして結果を多くする為に頭も身体も資本もつかふべきである。こんなことは自分が云ふ迄もない事だが、合理的の社会をつくる第一条件として必要だから述べる。しかしかう云ふ制度が実行される為には、各人が賢くなり、そして共同の精神が発達する必要がある。教育の方針から段々さう云ふ風にかへて往かなければならない。そして制裁が行きわたると同時に出来るだけ思ひ遣りが行きわたらなければならない。そして動きのとれない法律でゝはなく、不文律で皆勇んでするのでなければならない。そして健康を尊重し、出来るだけ各自の才能を生かし、出来るだけ喜びを以て労働するやうに骨折らなければならない。

A。先生からさう云ふお話は一度伺つたやうに思ひます。

先生。もう何度も云つたかも知れない。しかし自分はさう云ふ社会が出来る迄は社会上の不穏な空気は失はれない。そして若しかう云ふ議論に反対する人があれば、それは平等と云ふことを本当には知らない人だ。僕の考へが社会主義に似てゐるかゐないかそれは知らない。僕はこの主義のことはまるで知らない。しかし兎も角自分の云つた事は当り前すぎる程、当り前のことで、もし人間の幸福、進歩、健全を望むなら、以上自分の云つたことは承知しなければならない。細い色々の面倒はあるが、一日でも早くこの事を実行することは戦争をする事よりも有益な事である。

A。しかし先生、自分達の労働することを考へると考へものですよ。

先生。君はまだいゝさ、身体がいゝから。しかし僕なんか、下手労働を強ひられたら寿命が縮まるし、自分の本職をする根気がなくなるだらう。しかし、それだけにある強迫観念を受けて、なほ今の労働の分配の不公平を思ふ。そして労働をするのに不適当な人間をつくる今の教育の過失を知る。今、労働と云ふ言葉から受ける感じと、今後の世界で労働と云ふ言葉のもつ内容とは、随分違ふに違ひない。われ〳〵は健全に人間らしい生活をする為めに労働が必要であると今云ふ人があつても、自分はそれを認めるわけにはゆかない。自分は労働者を尊敬したい気さへしてゐる、そして労働者は過度に労働をしてゐるにかゝはらず、わりに愉快に暮してゐると云ふことを認めるにしろ、今の労働者の労働を正しい、そして健全なものとは思へない。

A。先生、そんなことは判り切つてゐます。

先生。それは解り切つてゐる。しかし自分の云はうと思ふことをはつ切りする為には、もう少しこの点をはつ切りさしておきたい。自分の云ひたいことは労働問題のことではない。人間が労働しない時間にはどう生きなければならないかと云ふ問題だ。自分は人間としての本性の要求に従つて、我々が最も人間らしい生活をするには、どうしたらいゝかを考へたい。僕はすべての人が労働しなければならないと云ふのは、すべての人が労働をする以上の生活をしなければならないと思ふからだ。人はパンのみで生きることは出来ないと云ふことを知る自分は、パンのみでやつと生きる人がこの世にゐることを認めて済ましてゐるわけにはゆかない。労働にもいろ〳〵ある。われ〳〵が生きる為に必要欠くべからざる労働と、さう必要のない労働とある。この必要欠くべからざる労働を一部の人に分担させて他の人々が呑気にしてゐるのは、今の世では已むを得ないことにしろ、正しいことではない。自分は便宜上日本と云ふ言葉を借りて饒舌るとする。日本人はすべて日本人であつて、同胞である。我々は今日の日本に必要な労働を日本人全体で引き受けるとする。そして体格や土地の関係や、その人の趣味によつて労働の範囲をきめ、そしてなるべく器械を応用し、なるべく労働を健康にそして楽にするやうに骨折り、利慾や生活難の伴はない労働をするやうにしたら、今のある人々が苦しめられてゐる労働とはまるで違ふ程、労働は苦しくなくなつていゝ筈と思つてゐる。このことは、判り切つたことである。そして既に誰もが心の底では感じてゐることである。自分はこんなことを今更ら云ふのも恥しい気がする。それで今仮りにこの問題を卒業したことにする。今や人々は人間の義務として一定の労働を進んですることになる。それは尠くも兵士になることの如く、名誉なことになる。工場は共有のものとなり、人々は其処で食ふ心配なく働く。男は男らしく、女は女らしく。そして最もよく働くものには最も早き自由が来る。一生の間に一人の人の働く義務量は定められて、其他は自由気儘に自分のしたいことが出来る。其処に始めて自由があり、競争があつてもいゝ。しかしともかく国民全体が健康を損ねないだけの衣食住は得られる。

A。労働の出来ない人はどうするのですか。

先生。それは身体の弱い人が徴兵にとられないやうに、どんな労働をすら出来ない身体の人は労働しないでもいゝ。又図抜けて、一方に才能をもつ人も、労働しないでも、なほその人の才能を研くことが、社会にとつて有益な場合は労働をしないでもいゝ許可を貰ふことも出来る。医者と薬は病人にとつてはたゞである。少くも人間が人間らしく健全に生きる為に必要なものはすべてたゞ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com